

1. 略歴

- 1992 年 3 月 京都大学文学部文学科卒業（文学士）
- 1992 年 4 月 京都大学大学院文学研究科修士課程梵語学梵文学専攻入学
- 1994 年 3 月 京都大学大学院文学研究科修士課程梵語学梵文学専攻修了（文学修士）
- 1994 年 4 月 京都大学大学院文学研究科博士後期課程梵語学梵文学専攻進学
- 2000 年 3 月 京都大学大学院文学研究科梵語学梵文学専攻博士後期課程中途退学
- 1996 年 9 月 ペンシルバニア大学文理大学院言語学科 Ph.D.課程入学
- 2000 年 12 月 ペンシルバニア大学文理大学院言語学科 Ph.D.課程卒業（Ph.D）
- 2000 年 4 月 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 COE 非常勤研究員（2001 年 3 月まで）
- 2001 年 4 月 白鷗大学経営学部専任講師（2005 年 3 月まで）
- 2005 年 4 月 白鷗大学経営学部助教授（2007 年 3 月まで）
- 2007 年 4 月 白鷗大学教育学部准教授（2010 年 3 月まで）
- 2010 年 4 月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授
- 2020 年 4 月 東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

歴史言語学、音韻論、インド・アーリア語、ドラヴィダ語、オーストロアジア（ムンダ）語

b 研究課題

インド・アーリア語、とくにサンスクリット文献学と、ドラヴィダ語族、オーストロアジア語族少数民族言語のフィールドワーク・歴史言語学

c 概要と自己評価

インド・アーリア語についてはサンスクリットを中心として他の印欧語族言語と比較し、音韻上の特性を記述した著書を出版し、現在は伝統文法の研究を行っている。ドラヴィダ語族では、北部の2つの少数民族言語について、現地調査を重ねて文法記述を完成させた。オーストロアジア語族では、未記述の言語エルンガ・コルワ語の調査を進めている。

d 主要業績

(1) 論文

- Masato Kobayashi, 「Viewing Proto-Dravidian from the northeast」, 『Journal of the American Oriental Society』, 140-2, 467-481 頁、2020
- Masato Kobayashi, 「Reconstruction of verb suffixes in Kurux and Malto」, 『Indian Linguistics』, 81, 1-12 頁、2021.12
- Masato Kobayashi, 「Origin of the -k past in Kurux and Malto」, 『International Journal of Dravidian Linguistics』, 51, 1-25 頁、2022.1
- Masato Kobayashi, 「Panini's definition of the bahuvrihi as sesa 'remainder」, 『Indian linguistic studies in honor of George Cardona』, 1, 217-236 頁、2022.3

3. 主な社会活動

(1) 学会

国内、日本言語学会、常任委員、2012.4～2018.3、編集委員、2018.4～
海外、Dravidian Linguistic Association、Advisory Board、2017～

(2) 学外組織(学協会、省庁を除く)委員・役員

教育機関、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、運営委員会委員、2013～、研修専門委員会委員、2016～